

鯉ハント

鯉ハントに行く前に

鯉ハントに出掛ける前に、自分の池の水量や浄化設備などを把握しておきましょう。そうすることで、鯉屋さんからの確なアドバイスを受けられます。

自分の池の情報を鯉屋さんと共有することで、「このくらいの大きさの鯉なら、何尾くらいまでは大丈夫」など、プロからのアドバイスが受けやすくなります。

また、鯉の調子のよくないときには、池に入れる薬や塩などの量についても指導を仰ぐことができるでしょう。

鯉屋さんでのマナー

まずは鯉さんに挨拶をしましょう。「ちょっと鯉を見せてください」——このひと言があると、鯉さんも気持ちよく対応できるというものです。

いい鯉がいたからといって、勝手に網を生簀に入れて鯉をすくうのはマナー違反です。必ず鯉さんに許可を得てからすくうようにしましょう。

すくった鯉はタライに入れてじっくり観察することになりますが、このとき不用意に触るとヌメリが取れたりして鯉にストレスを与えます。オス・メスを判別したいときには、プロにお手伝いしていただくといいでしょう。

他の人が選んだ鯉を否定するのはマナー違反です。模様については個々人の趣味が反映されるので、正解はありません。欠点を見つけるのは簡単ですが、それ以上の面白みや魅力を感じてほしいものです。

どんな鯉を選べばいいか

鯉さんに行って生簀を眺めると、必然的に色艶や模様を比較して鯉を選ぶことになりますが、購入を決める前に確認しておくべきことがあります。それは、各鰭の欠損や曲がりなどがいないか、頭が歪んでいないか、鱗はきれいに並んでいるか、などの錦鯉としてあるべき姿を具えているかということです。模様によって頭部が歪んだように錯覚してしまう鯉もいるので、注意深く観察してください。

自分の池と鯉のサイズとの兼ね合いも重要です。小さい池なのに、大きくして楽しむ「立て鯉」を買っても鯉は窮屈なだけで、本領が発揮できません。自分の池の水量がわかれば、鯉さんが最適なサイズの鯉をアドバイスしてくれるでしょう。

取材
協力

中山養魚場＜連絡先＞090(4989)9560

